臻倉見聞志

권 一
권 三

へ遠13
2475
19

3 遠へ門
2475
19

金森藏書

一 一 一 一

源金之軍旅卷之壹

目錄

和尚之母之列小名之法之事
將軍執權之事大寺法華之事
勸請大佛殿之事附鑄鐘之事
梶原平三景時之元之事

新田義貞
結城七郎
次小杉軍
有名な怪武
犬追物の名手
若宮小路
経清の
小笠原弾
平賀三郎

三浦十郎　八田右兵衛
下河辺庄司　小栗十郎
小笠原六郎
名将の武
武田信光
長沼宗政
小山朝政
千葉介

宗古義
和邦三郎
畠山重忠
梶原平三
長江四郎
江戸太郎
我孫子

結城七郎
河利三郎
毛利三郎
結城朝光
波多野五郎
小田太郎
二宮小次郎

毛呂三郎
荘extra平
葛西清重
梶原源太
波多野小次郎
小田太郎
安房判官
小須田

無福寺の別当権律師□□
□□治二年□□
大和守源之人□□
□□□□□
□□□□□
□□□□□
勅討の為に滅□□
文治二年□月□日□

信元頼朝と結ばんと企
義貞義兵を挙げ天皇を
まふ師を江戸に長く滞
頼朝義時等なりたゞち
の兵を率ゐ東海道より
向ふ遠江に至り
やがて軍の
威とゞろく法師ばかり
ことごとく武士と
小さな石の
ふ勾
ば鎌倉
若ものどもを静
ず

目録

一　平家の残党吟味の事

一　将軍家天王寺へ御参詣の事

長福寺が西楼門を南寺の
別当法智僧正に和寺の法親王
ゞゝ元僧寺の称を改め
一天の君の御願寺
法皇ましまして
申の刻ばかり
陸奥の国
しきりに夜ごとの星のごとく
望御馬
やそしまるの
ましまして
なかにも
滝をつくり
對面

牧の名ばかりにて
しづか淋しき事
我しらそとの小
事少なく治と称
少年の威権
云而も治ぶ威と
称ぬや事成難
事ならん

岩ふみ
書ふみの中
に
稲毛之部牧や
吉小論事
岩ね
ふとと
中の刻小治金小芝
行事新芝名
月廿八日